

ワークショップを通じた地域の子どもの創造性育成支援

西岡貞一

図書館情報メディア研究科

鈴木佳苗

図書館情報メディア研究科

1. 創造性、メディア・リテラシー育成環境の必要性

これまで図書館情報メディア研究科では、図書館を初めとする社会教育施設のサービス拡大や子ども達の創造性育成を目的としてコンテンツ・ワークショップの研究を行ってきた。本稿では研究科の教員・学生有志が取り組んでいるワークショップを通じた社会貢献活動「子どものための創造性、メディア・リテラシー教育」について紹介する。

デジタル技術の普及により、コンテンツは一部のプロだけが作るものから、これまでは消費者であった個人やアマチュア自らが参加・共有・交換することでコンテンツを作る時代が始まっている。

ネットワーク時代のコンテンツは、「楽しむもの」から「創るもの」に変わり始めている。しかし、今後のデジタル時代を支える子ども達がデジタルメディアを活用

した映像・アニメーション・音楽・ロボットのコンテンツを作るためのメディア学習環境の整備は大きく遅れている。インターネット、デジタル映像、ロボットといった最先端のメディア技術は進歩のスピードが速く、また工学的な知識と芸術的な表現力が求められるため、小中学校の教育現場だけで対応することは困難である。

これに対して、社会教育施設、ミュージアム、企業等と連携し大学が持つ先端技術や教育のための資源を活用することで、ワークショップなどの活動を強化し、地域全体として子どものための創造の場、表現の場を提供していこうという動きが始まっている。

2. 牛久市立中央図書館での「デジカみしばいワークショップ」

牛久市立中央図書館と共同で「物語制作」のワークショップを開催した。デジタルカ



図1 牛久市立中央図書館での「デジカみしばいワークショップ」(発表会の様子)

メラを使って撮影した画像と自分達で作ったストーリーを組み合わせることで紙芝居を作成。子ども達自身が声優となり物語を友達に紹介した。物語づくりや、ナレーションを体験する中で子ども達は伝えることの楽しさ難しさを学んだ。本学教員・学生と牛久市立中央図書館の館員による創造性育成ワークショップは17年度から続いており、参加した子どもたちからは「楽しかった、また来るよ!」といったコメントがあり、地域の子どもたちに創造体験の機会を提供する図書館の新しいサービスとして、子どもた

ち、図書館、行政からの期待が高まっている。(協力：(株)CSK社会貢献推進部CAMP)

3. つくばエキスポセンターでの「つくばのこどもワークショップ」

松ぼっくり、色紙、ビーズ、プラスチック製ブロックなど身の回りの素材を使った造形、マイコンやセンサーを使った工作、子ども達のアイデアを組み合わせ「動くオブジェ、動くおもちゃ」作りを体験した。当日は大学、つくばエキスポセンターに近い小学校から20数名の小学生が集まり、工



図2 つくばエキスポセンターでの「つくばのこどもワークショップ」

作やプログラミングに取り組んだ。ほとんどの子ども達がお互い初対面だったにも拘わらず見事なチームワークでユニークな作品を作り上げていた。今回の試みを機につくばエキスポセンターとはワークショップの継続的開催に向けて検討を進めている。なお本事業の一部は平成18年度筑波大学社会貢献プロジェクトの支援により行なわれている。

(協力：(株)CSKホールディングス社会貢献推進部CAMP、(株)文化総合研究所)

4. 福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ館での「映画制作ワークショップ」

平成19年3月、映像制作の見方や作り方を学ぶことを目的に、春休みを利用して中学生を対象とした映画制作ワークショップを開催した。映画制作をとおして中学生が自分の「物語」を映像化する機会と創造力を育む環境を提供した。

ワークショップに参加する中学生がそれぞれ持ち寄った作文を皆で回読し、映画の原案となる作文を選出する。選ばれた作文をもとに各自が脚本を執筆、これをもとに議論を行い二稿、三稿を経て最終稿を仕上げる。ロケハン、撮影機材の講習を行なう傍ら配役を決めリハーサルを行なう。

撮影現場では、各シーン毎に、参加者全員で決めたそれぞれの役割である監督、助

監督、カメラマン、録音、照明等を順番に担当する。ワークショップを通じ中学生達は創造力、表現力を養い、仲間と共に協力し、知恵を出し合い、自分達の映画をつくりあげた。

(主催 福島市教育委員会、協力 日本映画学校)

5. 持続的開催のための体制作り

最後に、創造性育成支援に向けた課題について触れたい。大学を初めとする教育機関や美術館等の文化施設では、これまでも創造性育成ワークショップを開催している。しかし資金・制度の面で実験的な試みも多く、持続的な取り組みは必ずしも多くはなかった。また、ワークショップを企画する人材が少なく各機関ごとに担当者が孤立していることも多く、一過性の取り組みになることもあった。そのため、結果的にワークショップを通じた創造性育成支援活動を地域全体に広げることが難しかった。

我々は、一連のワークショップを通じて、地域の子どもの創造性育成に貢献できる手ごたえをつかんだ。これらの成果を広げべく大学周辺の学校、社会教育機関との連携を強化し、行政への働きかけを行いながら地域への貢献を続けて行きたいと考えている。

(にしおか ていいち/メディア、コンテンツ)
(すずき かなえ/メディア教育)



図3 福島市子どもの夢を育む施設 こもこも館での「映画ワークショップ」